



▲ お菓子をどうぞ

広島国際学院
創立77年



▲ 韓国のお坊様は余裕でお茶を楽しむ



◀ あでやかな民族衣装のお客様も

▼ 全員集合、お疲れ様



◀ 苦〜



9月20日夜、国連開発計画など主催「パンアジアユースリーダーサミット」に招待された各国代表に本大学茶道愛好会がお点前を披露。広島から茶の心を伝えた(p12に関連記事)。

地域に根ざし地域と歩む

特集 短期大学40年の歩み	2・3
工学部シンポジウム	工学部 4
黒田征太郎さんアニメ上映会・講演会	情報学部 5
公開市民講座	現代社会学部 6
2級整備士試験の実績	短期大学部 7
高校から発信	高等学校 8
私の大学生活	9
第37回高城祭	9
研究室紹介	10・11
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	11
英吉利風読書	12
チャンスは掴め!	12

広 報

第 60 号

平成17年1月1日発行

自動車短期大学部

短期大学部40年の歩み

自動車短期大学部は今年度で設立から40周年を数える。その歩み、設立時と現在の比較および最近の動きについて紹介する。

1. 短大部の沿革

- 昭和39年 広島電機学園短期大学設立
目的：地域社会に愛され信頼される教養と実践に富む有能な中堅の人材育成を目的とする自動車整備士の専門教育
- 昭和40年 運輸省の自動車整備士の養成、認定大学
- 昭和42年 「広島電機学園短期大学」を「広島自動車工業短期大学」に校名変更
道路運送車両法の規定による自動車分解整備事業を認証される
- 昭和63年 広島自動車工業短期大学、安芸区上瀬野に移転
- 平成11年 「広島自動車工業短期大学」を「広島国際学院大学自動車短期大学部」に名称変更
- 平成15年 1級整備士の養成を目的として専攻科(整備工学専攻)を設置



設立当時の短大校舎



現在の校舎

2. 卒業生数

平成16年3月現在 7,252名

3. 設立時と現在の教科

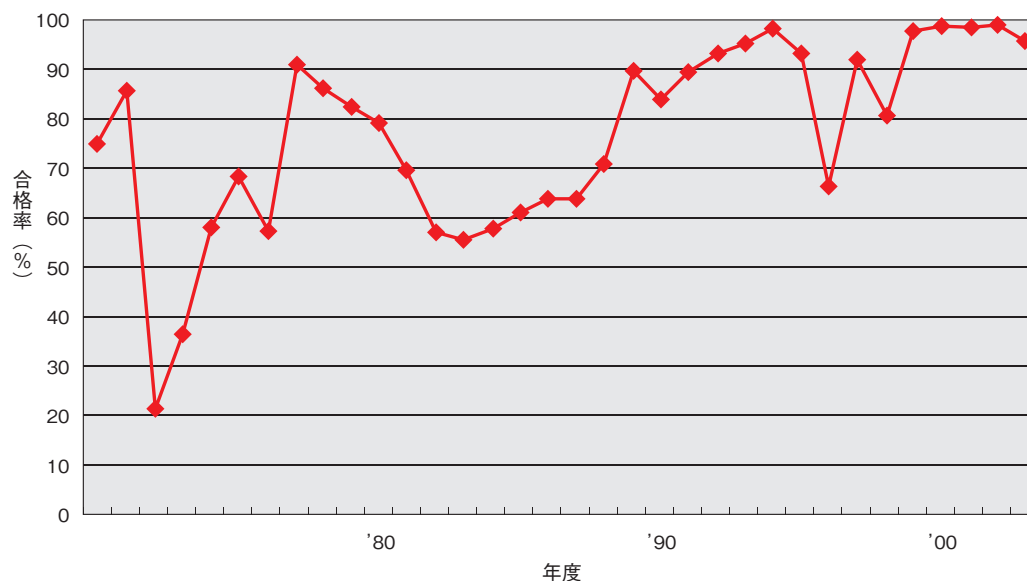
			昭和39年	平成16年
基礎	教科数	必修	0	4
		選択	12	9
	単位数	必修	0	5
		選択	24	15
専門	教科数	必修	17	5
		選択	15	15
	単位数	必修	33	52
		選択	24	35

4. 設立時と現在の教員の陣容

	昭和39年	平成16年
教授	13名	5名
助教授	3	5
講師(非常勤を含む)	43	21
助手	2	1

5. 2級整備士国家試験合格率の推移

設立当初は30%を切り、80年代は全国平均に等しかったが、近年は目覚ましい躍進ぶりで全国のトップを争っている。



6. 最近のトピックスから

全日本ゼロハンカーレース2004

8月21日(土) …車検、8月22日(日) …レース



ゼロハンカーとは50ccエンジン搭載の手づくりの4輪車です。自動車短大部では選択授業でゼロハンカーを作り、広島県世羅郡甲山町(現:世羅町)小谷スポーツ公園で毎年8月に開かれるレースに出場しています。レースは、S字・ヘアピンを含む1周約400mのコースを3周するスピードレースで、1次・2次予選を経て6台が決勝に進みます。今年は、学生クラスに23台が出場。自動車短大部からは3台が出場し、3台とも1次予選を突破、内2台が決勝に進み準優勝、4位入賞と健闘しました。これまでの戦績は次の通りです。

2000年	優	勝	:	1台出場…初出場
2001年	3	位	:	2台出場
2002年	準優勝、特別賞	:		3台出場
2003年	6	位	:	3台出場
2004年	準優勝、4位	:		3台出場



準優勝トロフィーを手に



車検を受ける



全員でコース作り



開会式



ドライバーズミーティング



レース前の点検・調整



前を行く自短ダントツ号!



決勝のスタート



やった!

創立40周年記念講演

横川レトロバスのシャシ開発

自動車短期大学部助教授

ますなが しげはる
益永 茂治



横川レトロバスとは今から丁度100年前の1904年に横川一可部間で運行開始した国産初のバスのことである。そしてこのバスを横川商店街再開発・同駅前広場整備計画のシンボルとして地元の人達を中心にボランティア活動で復元させるという熱気あふれるプロジェクトである。私がこの活動に関わったのは2002年10月、自動車短期大学部へ再就職の打ち合わせに赴いた際、偶々その日に横川商店街から短大に協力依頼があったのが切っ掛けであった。

私に求められたのは足回りの構想設計で、予算は常識的な費用の1/10、期間は1年半という厳しいものであった。改造の主眼は、木製スポーク車輪の具現化など出来るだけ実物に忠実に復元することと、安全に自走させることの両立である。クルマ造りには自信があったが、短期間に少ない予算で期待されるような復元が出来るかが最初の課題であった。これはボンゴとアクティを合体することで解決案が見つかった。設計までは自力で出来るが、最大の問題は巧みな“造り手”を見つけることで、自動車に経験のある工場の協力が必須である。知人の紹介でレーシングカー改造能力のある町工場がボランティア価格で快く引き受けてくれ、2004年3月末見事な足回りが出来上がった。

この様に短期間に何かを成し遂げようとする時、無くてはならない熱意と技術を持ち合わせた人々がそこにいたということに地場の底力の凄さと、だからこそ国産初のバスがこの地に生まれたのだと再認識させられたのである。私も企業を離れて初めての本格的ボランティア活動で、多くの人達の協力の「輪と和」の大切さを学んだ17ヶ月間であった。



横川レトロバス完成写真
撮影: 松浦康高氏

「技術教育におけるものづくりと体験」

「循環型社会」、「ものづくり」、「伝統技術・技能」をキーワードとした第2回工学部シンポジウム「技術教育におけるものづくりと体験」が、12月4日（土）、13:00から17:00まで本学立町キャンパスで開催された。



今回は4名の講師に以下のようなタイトルでお話いただいた。

- (1) 宮里昭男氏（広島市中小企業支援センター、元マツダ（株））「一企業内技術者がみた“技術”と“技術教育”」
- (2) 川上敏行氏（広島国際学院高等学校）「初等・中等教育における実験・観察活動」
- (3) 澤井一郎氏（呉市立昭和中学校）「環境と体験教育」
- (4) 黄 樹偉氏（広島国際学院大学）「ものづくりスターリングエンジンを例として」

澤井氏と川上氏からは初等・中等教育の現場での非常に貴重な体験教育をお話いただいた。

宮里氏は、知識と体験があつてこそ知恵が蓄積され、これが創造性の原点であることを幾つかの例を挙げながら力説された。表現力やコミュニケーション能力、更にはものづくり能力が技術者の基本能力であるという主張はこれからの技術教育のあり方を考えさせるものであった。

黄氏は、本学の学生が製作したスターリングエンジンを示しながら、ものづくり教育の成果と学生に培われる意欲を的確に伝えていた。



今後もこの工学部シンポジウムを継続し、社会或いは時代の要請にあつた技術教育のあり方を発信していきたいと考えている。

私の大學生生活
60歳にして、勉学にはげむ

電気電子工学科1年 しらいし ひろたか 白石 熙岳



皆さん、こんにちはピカピカの一年生です。ちなみに、私は昭和18年生まれです。

(株)中電工で、ビル、工場の電気設備工事、海外での石油精製プラント工事(サウジアラビア)、その後、尾道営業所⇒日本鋼管福山作業所⇒広島県大竹市の三菱レイヨン作業所で、設計・施工・積算等に従事し、平成16年3月末で定年退職しました。

定年後はどう過ごすかについて妻と話し合い、当大学の社会人入学制度があることを知り、社会人として働いている間資格の重みと知識不足を痛切に感じ、40数年振りになつた気持ちで勉強をする決心をしました。

しかしながら、早くも入学式の翌日にはテストがあり、どの科目もさっぱり解らず頭の中は真っ白、これで行けるのかと落ち込み5月病にはかかるし、大変でした。特に情報関係の授業は、若い皆さんについて行けず、悪戦苦闘しながら諸先生方のご指導のお陰で少しずつですが理解しています。一年を振り返ってみて、多くの知識を得たこと、生涯学習の必要性を感じました。

これから皆さんは当大学で勉強し社会に出て行きますが、この4年間に教養、専門知識を高め、社会に出たときにこの人が欲しいと言われる人材になってください。若い皆さんならもっともっと頑張れるでしょう。私も、皆さんの若いエネルギーを貰って頑張っていきます。

私を見かけたら気軽に声を掛けてください。よろしくお願いします。



大学ぐるみの就職活動支援

学生部 就職課

本学では独自に約8,000社の企業情報を持ち、毎年届いた求人情報は紙ベースと学内LANの二通りから成る求人情報検索システムに組み込まれる。学生が希望条件検索(本社所在地、業種・職種別、勤務地別等)で情報収集することを可能にしている。

また、このシステムは学外からも「ダイヤルアップ」で24時間学生にサービスを提供。これを活用し、学部(キャンパス単位)の特性に応じた進路・就職支援も次のように展開している。

工学部・情報学部では、「総合的就職支援」と銘打って、1年生から系統的・連続的なプログラムを実施。入学直後の「キャンパスライフ講演会」・自己分析検査の受検に始まり、各学年でのガイダンス・自己分析検査・適性適職検査・就職適性検査対策講座・就職セミナー(ビジネスマナー等)及び「キャリアデザイン」(集中講義・24コマ)で単位認定をする。なお、就職活動等に必要なパソコン約550台を学生に開放し、学内外のネットワークを利用可能にしている。



学内合同企業セミナー

情報学部

黒田征太郎さんアニメ作品上映会・講演会

平成16年4月、WEBサーバ構築・管理の専門的知識とWEB上での情報表現を豊かにするアニメーション・CG・映像・デジタルサウンド技術を総合的に学ぶ学科として、情報学部情報デザイン学科が新設された。これを記念するイベントが10月10日(日)に開催された。

イラストレーターの黒田征太郎氏を立町キャンパスにお招きし、「黒田征太郎 作品上映会&講演会」を行った(広島国際学院大学・朝日新聞社広島総局主催、広島ホームテレビ後援)。参加者も子供を含め約100人と盛会であった。

上映された作品は、野坂昭如氏原作の「戦争童話集」。戦争を遠い過去の話にしてしまわないようにと、黒田氏や野坂氏をはじめとする人たちがプロジェクトを組み、全12話をすべてアニメ化したものである。上映された作品の題名は次の通り。

戦争童話集「忘れてはイケナイ物語り」1

- 第1話：小さい潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話
- 第2話：凧になったお母さん
- 第3話：年老いた雌狼と女の子の話

戦争童話集「忘れてはイケナイ物語り」2

- 第1話：青いオウムと痩せた男の子の話
- 第2話：干からびた象と象使いの話
- 第3話：赤とんぼと、あぶら虫

戦争童話集「忘れてはイケナイ物語り」3

- 第1話：八月の風船
- 第2話：捕虜と女の子
- 第3話：ソルジャーズ・ファミリー

戦争童話集「忘れてはイケナイ物語り」4

- 第1話：馬と兵士
- 第2話：ぼくの防空壕
- 第3話：焼け跡の、お菓子の木

黒田氏は作品上映の合間に、制作の動機や平和への思いなどを熱心に話した。また、講演会では即興でイラストを描き、子供にプレゼントする一コマも。「来年に向けて、広島・長崎をテーマにしたアニメーションの制作に取り組んでいきたい」と熱く語っていた。



現代社会学部では、「学生一人ひとりの持つ能力を最大限に引き出し、引き伸ばす」ことと、「one to one」「face to face」を就職支援の基本に掲げる。就職活動が本格化する3年生には、「就職活動に対する心がまえ」と「就職試験対策」を『基本ガイダンス』で実施し、「就職シンポジウム」など学外講師による各種セミナーも『特別プログラム』として開催している。4年生には「あなたの会社選択に役立つエクセレントカンパニー情報!!」を『直前プログラム(講演会)』として開催し、学生の就職活動をサポートする。正課授業では「TOEIC」「情報資格取得教育」などの『到達目標型教育』も実践している。

さらに、両学部とも独自に、正課授業としてインターンシップを開講、単位認定し、自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験をさせることで、ベストマッチングの就職を実現している。また、就職試験対策講座・資格取得のための課外講座も充実させている。



就職ガイダンス

公開市民講座 — 知識も深める秋

現代社会学部

現代社会学部では、例年は前後期それぞれ5回シリーズで開催してきた公開講座を、今年は趣向を変えて実施した。

まず9月25日に「今日の大学教育－教養教育を考える－」というタイトルで討論会を開催した。京都大学で教養部の改革に取り組んでこられた高橋由典先生の基調講演をふまえて、マツダ財団事務局長（代理）永松貴文氏、本学工学部遠藤敏郎先生による討論が行われた。本学部の高橋三郎先生が司会をつとめた。

また「現代社会学の個展」シリーズとして10月からは新陸人学部長による「変動する現代と社会学」、11月からは北川建次先生の「地域研究－国内と海外－」をそれぞれ5回のシリーズで行った。



さらに、11月からは広島市のシティカレッジで「都市を読み解く－都市のパーспекティブズ－」という講座を提供。都市計画の専門家である下田貞夫氏、本学部の新陸人学部長、北川建次先生、定松文先生と、非常勤講師の青木秀男先生による「都市論」を展開した。

現代社会学部では市民の皆さんからの多様な要望に応じて、多彩な「学問」を提供している。

しゃべれ場

立町キャンパス発

——自分と社会を繋ぐ場所——

「話す」ということは自分を表現することであり、自分を表現するということはさまざまな自分に対する責任が伴ってきます。そして、その責任は時として「話す」という行為の障害となってしまふ…

『しゃべれ場』は「何でも話すことができる場所」というコンセプトを与えることによって、そんな「責任」を少しでも軽くし、自分を表現することを助け、その表現の中から新しいメ（芽・目）を社会に発信することを目的に、オープンキャンパスのイベントの一つとしてスタートしました。

6～10人程度の現代社会学部の学生をコアとし、時には先生を交え、時にはオープンキャンパスに訪れた高校生を巻き込みながら、基本的に司会などを決めることは無く、それぞれがテーマについての思いを、そのまま飛ばしあう形で『しゃべれ場』は進んでいきます。

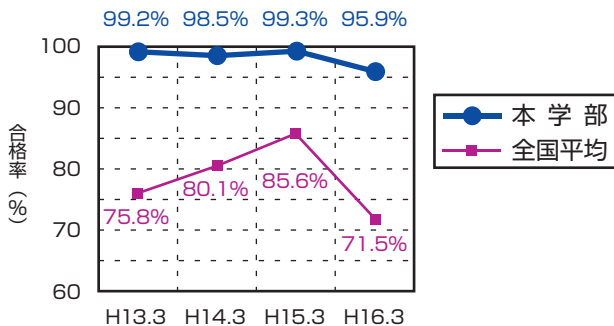
また、イベントが行なわれていない間も、インターネットにあるホームページ内の掲示板にて、前回の反省、前回のテーマで新しく思いついたこと、次回のテーマについて、などが書き込めるようになり、時間と空間を越えて『しゃべれ場』が存在できるようになりました。

2004年の夏から始まった『しゃべれ場』も4回を数え、次回の現代社会学部のオープンキャンパスに節目となる5回目を計画しています。そして現在、『しゃべれ場』ホームページ内掲示板にて第5回『しゃべれ場』のテーマを募集中です。ぜひ、どんなことでも思いついたことを書き込んでみてください。

しゃべれ場 HP URL <http://www.geocities.jp/anomaer/>



2級ガソリン試験合格率状況



今年は全員合格を！
平成 16 年度開講式



2級自動車整備士国家試験に全員合格を目標に、2年生の前期から前期講習、特別講習、習熟度別クラス編成、勉強会、個人指導など学生の学力に合った、きめ細かい指導を行い、高い合格率をあげている。

平成 16 年 3 月実施の登録試験の結果は

2級ガソリン (2G) は 95.9%、
2級ディーゼル (2D) は 80.0%であった。

年 月	H.13.3	H.14.3	H.15.3	H.16.3
卒業生数	126名	132名	135名	147名
2G	受験者	122名	132名	135名
	合格者	121名	130名	134名
2D	受験者	—	37名	40名
	合格者	—	37名	39名

資格にチャレンジ、ライセンスをゲット

2級自動車整備士以外にも中古自動車査定士など整備業界で必要な資格を取得するチャンスがあり、多くの学生がライセンスをゲットしている。

表は過去3ヵ年の取得者数の実績である。



フォークリフト技能講習



小型車輛系建設機械特別教育



ガス溶接技能講習

資格名	平成 年度	13年	14年	15年	16年
ガス溶接技能講習		63名	80名	87名	153名
フォークリフト技能講習1t以上		95名	60名	91名	135名
小型車輛系建設機械特別教育3t未満		52名	37名	95名	47名
損害保険募集人資格		56名	42名	72名	81名
中古自動車査定士 (小型)		75名	76名	74名	?名



1級自動車整備士合格を目指して

専攻科2年 なかにし かずや
中西 和也

僕は本学に入学した時に、1級整備士養成課程が設けられることを聞き、専攻科に進むことを決めていました。車の技術的なことはほとんど知りませんでしたが、はっきりした目標があったのでしっかり勉強しました。その成果があって特待生にも選ばれ、その後の大きな励みになりました。

入学前に車のことはあまり知らなくても、自分がその気になれば何でもわかるようになります。それ以上に知りたいこと、学びたいことがあれば、専攻科に進んだ方がよいと思います。専攻科では自動車工業科ではやったことのないことを多く体験するので、ここで初めて学び、知ったことは沢山あります。

自動車工業科を卒業するとき、これで自動車のことは十分勉強したと思ったのですが、今振り返ると、「2年間だけではごく一部のことしか身につけていないな」というのが実感です。だから、もっと知りたいこと、やってみたいことがある人は専攻科に入ることを勧めます。専攻科では、企業で実務を実習するインターンシップが義務づけられています。そこで初めて知った業務もありますが、何よりも社会の厳しさというものが体験できてよかったと痛切に思います。この専攻科ができたことは、学生のためにも短大のためにもよかったと思います。



平和公園にて

イギリス姉妹校から初の来訪 ——分かち合う感動——

10月30日(土)から11月9日(火)にかけ、イギリスのBeckfoot Schoolから19名が本校に訪れた。イギリス姉妹校からの訪問は初めてである。両校の生徒たちは授業や旅行などを通じて互いに理解を深め合った。



日本の文化・茶道に挑戦



面! 胴! 剣道!



折り紙も英語で



「何が出来るかしら」



陶芸も体験



これも日本文化?
「おめでとうございます」



「帽子? カブトだよ」



門司・下関方面に遠足



サヨナラパーティ



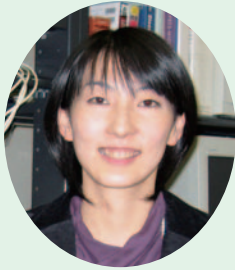
みなさん、ようこそ

野球のこと、中国では「棒球」って言うんですね… 中国四川省棒球隊が来校

10月8日(金)・9日(土)、中国四川省棒球隊が本校に来校。書道や陶芸の授業にも参加した。野球部員の家にもホームステイしたメンバーは、合同練習を通して交流を深めていた。



交流はスキンシップから



私の大学生生活

目標を見つけ、楽しみながら成長したい

情報工学科4年 いわまさ たかえ 岩政 貴絵

—数学が苦手だったよね？

理系の大学に進学したことを私が話すと、大抵はこのように聞き返されます。

実際に私は、小中学生時代は理系分野が苦手で、テストも散々だったことを覚えています。しかし、中学時代のパソコンを使った授業をきっかけにして、私は工業高校へ進学しました。そこで、もっと深く勉強をしたいと考えるようになり、工学系の大学への進学を決意しました。『興味がある』というだけで進学を決めたため、1年次の基礎的な学習には、毎日の講義についていけなくても必死でした。しかし、講義が進んでいくにつれて、なぜ1年次にしっかりと基礎力を身につけないといけないのかを、身を持って感じる事となりました。私は、好きなことだけを学習しておけば良いという甘い考えでしたが、実際はその反対で基礎力を身につけることによって、様々な角度から考え、より深く学習することができるのだということを知りました。

勉強をしなくてはいけないという考えから、基礎力を身につけた上で自分の好きなことを好きなだけ追求していくことが、知識を身につけることだと感じるようになりました。

そこに行き着くまでは、遠回りをしたように感じますが、ひとつひとつ確実に、そして楽しみながら目標を見つけて行くことができた大学生活はとても大きかったように感じます。

現在は、卒業研究へと打ち込んでいますが、4月からは社会人として、また新たな目標を見つけ楽しみながら、成長し続けて行きたいと考えています。



最高のイベントめがけ「乾坤一擲」!

—第37回高城祭—

去る11月13・14日に本学中野キャンパスで第37回高城祭が行なわれた。今回のテーマは「乾坤一擲」。今年こそ過去最高の高城祭に、という意気込みをアピールした。大学祭当日、学内には色鮮やかな入場門や巨大看板などが設置され、来場者を出迎えた。グラウンドの入場門をくぐると学生によるバザー店が活況を呈し、野外特設ステージでは様々なイベントが行なわれていた。

当夜祭(13日)の高城ビンゴ大会は、海外旅行(韓国のプサンとタイのプーケット島)が当たると言うこともあり、大いに盛り上がった。また、ステージ企画では来場者全員に参加してもらい、盛んな歓声が湧き起こっていた。勝ち残った人には東京ディズニーリゾートへのペアチケットが贈られた。

終夜祭(14日)には「B-DASH」のゲストライブもあって約2,000人がつめかけ、例年以上の盛り上がりを見せた。また今年で最後になったファイヤーは火柱を上げて燃え盛り、一同の心と身体を暖めた。ラストを締めくくるエンディングでは豪華な花火が打ち上げられた。冬の夜空に舞う花火は例年にも増して

綺麗だったため、来場者の歓声がグラウンドを包み込んだ。

高城祭開催に先立ち学生達は大学の近隣を清掃し、地域の人々への理解と参加を呼びかけた。





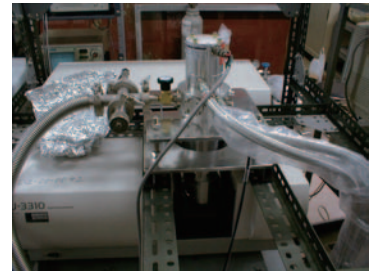
本研究室では、レーザーを使った薄膜作製の研究と、電気電子工学に関する教材のホームページ作成を行っている。ここで、これらのテーマを紹介する。

(1) レーザーを使った薄膜作製

レーザーは強力な光で、照射された物質の温度を急激に上げて、蒸発させることができる。この性質を利用して、現在では、レーザー加工機やレーザーメスが実用化されている。しかし逆に、我々の行っているレーザーアブレーション法では、レーザーを使って薄膜を作っている。簡単に言うと、レーザーによって物質を蒸発、またはプラズマ化して、ガラス基盤に写し取り、薄膜を作製する方法である。これによって、他の方法ではできなかった、硬いセラミックや金属を薄膜にしたり、様々な化合物の薄膜を簡単に作製したりできる。現在は、光に反応する半導体の薄膜を作っており、センサーのような光電素子や、レーザーのような発光素子の開発を目指している。研究室には他に、光をあてて薄膜の透過特性や発光特性を調べる装置、薄膜の温度を絶対零度近くまで冷却できる装置があり、作った薄膜の性質を調べている。

(2) 教材のホームページ作成

今ではインターネットを使って、世界中の情報をパソコン上で、どこからでも見ることができるようになった。そこでインターネット上で見ることで、電気電子工学の教材のホームページを作っている。このような教材を使えば、自分の知りたいことを、自由な時間に、自由な場所で調べることができる。現在、半導体や家庭の電化製品の原理などを、研究室のホームページに載せている。ぜひ一度ご覧いただきたい。



レーザーアブレーション薄膜作製装置



工学部 電気電子工学科

さか い ひさし
酒 井 恒 研究室

レーザーによる薄膜作製と 学習に役立つホームページ構築



情報学部 情報デザイン学科

なか た みきこ
中 田 美喜子 研究室

心理学に基づきe-learningシステム構築・ 生涯教育を応援



2004年度4月から新設された情報学部情報デザイン学科に所属している。大学院での専門は心理学、特に生理心理学で脳波の分析を研究していた。当時はオンラインの実験は少なく、自分でプログラムを作成し、脳波を測定すると同時に分析できるシステムを開発するとともに、人間の心理的な反応（脳波）を解析・分析していた。特にヒトが行動を起こすときに発生する生体反応を研究していた。

大学院修了後は、広島県の西地区にある数校の大学で情報処理関係の科目を教えていた。それが縁で本学に着任することになった。着任以前は、情報関連科目についての教育心理学的な研究を行い、プログラム作成能力と知能・人格の関係と、教育方法について研究をしてきた。

本学では、1・2年生の情報関連科目を担当し、インターネット普及にともない、初期段階では米国と文化交流を行う講義を実施した。インターネットを利用した遠隔教育やe-learningについては現在も研究を続けている。広島県で開催された「2001年ねりんピック広島」では情報ビレッジ実行委員長を務め、高齢者への情報機器の普及について展示や講演を実施した。

情報デザイン学科では、特に高齢者における生涯教育を実施するための教育教材やe-learning、遠隔教育の研究を継続している。今後は、教育心理学的な研究とともにユニバーサルデザイン的な教材の開発を研究していきたいと思っている。

の 紹 介 ● ● ●

職業の社会学を専攻し、職場の仕組みや労働条件と職業生活との関連や、医師など専門職(profession)の職業生活と意識を研究している。また社会調査論も専攻し、アンケート調査などの社会調査の方法の研究や、社会調査で得られたデータの分析法の研究をも手がけている。

私は現代社会学部の教員では意外にも少ない社会学部出身者である。入学した今から40年くらい前と比べ、社会学部や社会学関係の学科の数、社会学を学ぶ学生の数は飛躍的に増えた。社会学の社会的な地位はずいぶん上がっているように思う。



最近、社会調査についての関心や理解が高まり、2003年の秋に日本社会学会などを母体とする「社会調査士資格認定機構」が設立され、「社会調査士」という社会調査の実施に関する専門的資格が授与されるようになってきている。設立当初から社会調査の理論と技法の教育に力を入れている本学部でも、認定機構の社会調査士資格が取得できるようになった。学生諸君にはどんどん社会調査士資格の取得に向かってほしい。

研究室の本は社会学中心だが、中でも職業と社会調査関係が多い。医師の職業生活と意識についての質問調査などを手がけて来たので、調査結果と分析に関する資料もたくさんある。

ゼミは職業と労働の分野だから、ゼミ生もほとんどが職業と労働に関することを研究している。白熱した議論をこれから期待している。



職業と労働の社会学・ 注目集める社会調査

現代社会学部 小野よし能文研究室

空の安全を守る航空管制官

——緊張と充実

学生時代の思い出と社会人になって思うこと

工学部電子工学科

昭和47年3月卒業

はせひろみつ
長谷博充



運輸省(現:国土交通省)に入省して32年が過ぎました。何回かの転勤で今、熊本に居ます。現在は熊本空港を中心とした航空管制の責任者として仕事をしております。

航空管制とは、航空機の飛行の安全を確保し、それらを効率よく飛行させる仕事です。それを行う航空管制官はパイロットと交信し指示を出します。責任の重さと緊張感で張りつめた現場ですが、達成感と充実感のある職場でもあります。

私は大学では電子工学科でした。それもあつたのか航空管制官となって間もない頃、管制の情報処理システム化に加わって下さいと言われ、プログラムを作りSEとしてもやって来ました。また、霞ヶ関の本省でシステム開発の企画立案や予算要求、その他関連の事案についても参画していました。

公務員というのは面白いものでいろんなことをやらせてもらえ、またいろんな場所で仕事も出来ます。外国の会議へも一人で放り込まれ日の丸を背負ってがんばってくることもありました。それらを何回かやっているうちに妙な自信が湧いてくるのです。この妙な自信には根があります。

私が入学した頃の大学は、こぢんまりとしたもので全てがこれからという時期だったと思います。教職員の方も学生もゆったりとしており、学園生活でも既成の慣習といったこともなく自由でした。それは自分たちで動かない限り何もないという環境だったと言うことです。そうすると良くしたもので、無ければ自分たちで考えて作る。そしてそれが、やれば出来るという自信に繋がっていったように思います。青年期に培ったこの根が今も生きています。

今思えば私は、4年という期間を親から、場を大学から借りていたのかもしれませんが。その舞台上自分なりに学業にクラブ活動にそしてバイトにと、忙しく舞っていたように思います。そこが電大でなくても良かったのかもしれませんが、私にはここだったのです。身の丈で過ごせる自由と気楽さがありました。



イギリスふうせつがき 英吉利風説書 (その1)

車いすの大学生、
英国・リーズ大学にて
ただいま猛勉強中



現代社会学部 3年 瀬戸口 潤之介

リーズは人口約70万人、英国内ではロンドンに次ぐ商業都市と言われています。鉄道、高速道路、空港などの交通機関が発達しています。公園の多さ(面積も広いですが)は英国一です。都市の緑化度は、欧州第二だそうで市民の誇りです。ちなみに一位はウィーンとのこと。春は街中鮮やかな花が咲き乱れ、香りで満たされます。外国人居住者が多いのも特徴です。

僕は今「ターゲット」と呼ばれる英語コースに出席しています。このコースはインターメディアイト(中級)を対象としたもので、読み・書き・聞き・話す全てのエリアのスキルアップを目指しています。英語の授業を全て英語で行います。正直ハードです。レポートもあればプレゼンテーション

もあります。一方、日本では習わない、フォーマルイングリッシュの使い方やウィークフォームもあります。このコースを終わると、いよいよ正規の授業です。今から楽しみです。

生活はと言えば、寮暮らしですが、比較的自由です。寮やユニオン(リーズ大学学生組合)にバブがあるので友達と行きます。デリバリーを取りつつ、夜中までレポート書いたり騒いだり…。

週末は市内へ出掛けます。メインストリートではミュージシャンがごきげんです。時には、フランス、ドイツの旅芸人が来ることもあります。もっとも最近ではイラク戦争に対する抗議活動もあつたりします。

季節柄、クリスマス商戦です。サンタもちらほらと街に…、ほとんどはナイトクラブの勧誘ですが。子供たちがおもちゃ屋でおねだりしているのもみかけます。もひとつ序でに書くと、日本ではセールの時に「赤札大特価」なんて言いますが、ここでは「ブルークロス」と表現します。



中国新聞提供 2004.3.18 掲載



今回の茶会で私は国際交流の楽しさを知りました。外国の方はこれほどまでに日本の文化に興味があったのか、また、異文化を持つ外国の方々のお点前をさせて頂いたことで、茶道では自分自身を見つめ、自分と向き合うことが大切なのではないかと思えました。これからも表千家茶道愛好会は、立ち止まることなく常にチャレンジ精神をもっていろいろなことに取り組んでいこうと思います。最後に、秋山さんをはじめ、HPの管理をして頂いているアキネツトさん、顧問の先生、指導の先生方に厚くお礼を申し上げます。

この度の突然の出演依頼にとっても驚き、当初は本当かと疑う気持ちさえありました。しかし、これは本当の話なのです。そんな大きな舞台で私たちの活動が披露でき、また日本の文化、表千家の茶道を多くの国の方々に知って頂けたのでとても嬉しかったです。イベント会社の代表でこのサミットのお世話をしてもらった秋山美代子さんが、緊急に出演できるサクルをお探しになっていたところ、幸運にも私たちのHPをご覧になりお声をかけて頂きました。かねてから私たち茶道愛好会は「チャンスは掴め！」を活動モットーにしており、今年も例年になく多くの茶会を開催してまいりました。中でも今回は国連機関の主催するイベントでの茶会です。今までになく緊張と、不安と、やる気を持って望みました。なにしろ、依頼があつてから当日までは5日間しかなく、準備や交渉事であちこち走り回り、打ち合わせで秋山さんとお会いしたのも当日の1日前で、なにもかもがドタバタしていたのを思い出します。

当日は夕食の後でしたので、各国の方々、大変リラックスされている中お点前が始まり、時間が止まってしまったかのように静まり返った瞬間が今でも鮮明に心に残っています。いろいろな国の方々それぞれの国の民族衣装を着て出席されている中、自分たちも日本の伝統衣装、着物に袴を着ていることで多くの方に興味を持って頂きました。

チャンスは掴め！——サミット茶会に緊急出演して

表千家茶道愛好会 部長 木原 啓人

国連茶会?!

国連総会ならぬ国連茶会?! 本大学茶道愛好会がはからずも海外からのお客様を迎え、国際色豊かな茶会が実現した。

9月20日(月)から21日にかけて、UNDP(国連開発計画)などの主催で「パンアジアユースリーダーサミット」が広島で開催された。アジア太平洋地域各国からNGO関係者らが多数参加、平和問題などについて話し合った。

サミット開催期間中の20日夜、夕食会を兼ねたイベント「ディナー・アンド・カルチュラル・セレブレーション」が行われ、茶道愛好会のメンバーがお点前を披露。サミット参加者たちにお茶とお菓子を振る舞った。当初担当するはずだった方が都合で出演できなくなり、本大学茶道愛好会に白羽の矢が立ったのである。様々な難問を抱えての茶会だったが、文字通り「一期一会」の心でもてなし、見事に大役を果たした。

この広報誌はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/kikaku/kouhou/>